

表紙写真

2014/4撮影

▼表紙写真は、4月4日桜花爛漫をショットしました。

▼今年の桜は、僅か数日で一挙に満開となりました。広酪本所の住所地「広島県三次市」の周辺も例外ではありませんでした。

▼昔から桜の花は、日本人にとって身近な花として愛され続け、花見の宴を担当する幹事の皆様にとりましては、気象庁の桜前線予報が気になられた方も多かったことでしょう。

▼「桜前線」という言葉の所以はマスメディアによる造語で、今から47年前の1967年頃から用いられているそうです。



▼平成26年度は、桜花爛漫の下でスタートしましたが、酪農業界にも満開の花が咲き誇る麗しき年度であることに期待したいものです。

contents

- ② 特集 新生「みわTMRセンター」完成
⑧ 会議だより
⑬ トピックス
⑯ 地域コミュニティ
⑭ ミルクパーラー

- ⑯ ちよつと気になる税務のはなし
⑰ 『銀の匙』（最終回）
⑰ 職員体制・担当地域一覧

- ⑲ 酪農テレックス

三月二十八日 みわTMRセンター



広酪は、みわ・庄原両TMRセンターの統合と老朽化した施設を一新整備し、良質で安価な飼料供給を通じて酪農家利益に寄与することを目的に、みわTMRセンターの施設整備事業を進めてきた。三月二十八日には、施設整備事業に指導頂いた広島県の他、協力頂いた関係団体、施設整備事業者を招き、安全祈願を含めた竣工式を開催し、約七十名が出席した。

新生「みわTMRセンター」完成 施設整備関係者を招き竣工を祝う



■組合長

「一円でも安く良い餌を」

岩竹重城組合長は、挨拶で関係各位への感謝の言葉と「一円でも安い餌を供給することで組合員の経営を楽にし、組合員と組合、共に元気にしてい。またTMRの原料は、高騰を続ける輸入乾牧草を国内産の飼料用イネに置き換え、農業生産法人との耕畜連携をもって、地域農業の発展にも貢献したい」と意気込みを述べた。



■厳かに安全祈願

竣工祝「テープカット」

新施設の竣工を祝して、岩竹重城組合長、杉原貢農林水産振興部長（広島県農林水産局）、増田和俊三次市長、河野巧購買課長（全国酪農業協同組合連合会大阪支所）、西口俊彦理建設設計代表によるテープカットを行った。



タ一の操業安全を願い、御靈神社の長尾宮司による神事が厳かに執り行われ、参加者一同、操業安全と新TMR飼料の利用によって組合員と広畠が共に発展していくよう願つた。

新施設を背景にテープが切られる
と、会場からは大きな拍手が湧き上
がつた。



■ 施行協力会社に感謝

みわTMRセンター施設整備にあ
たつて、理建設計、有限会社ユノカワ、
岸本鉄工有限公司、中国ヤマトハカリ
株式会社、エム・エス・ケー農業機械
株式会社に感謝状と記念品を贈呈し、
関係者に感謝の意を表した。



(駆動スイッチを入れる岩竹組合長)

圧縮梱包機から排出される飼料が回
転し、ラップで巻かれていく様子を興
味深く見つめられていた。

密性が増し、品質が安定する点が挙げ
られる。

岩竹組合長が駆動スイッチを押し、
飼料攪拌機二基、圧縮梱包機等が稼働
すると、出席者は席を立ち、カメラ等
をもつて稼動状況を確認されていた。
この施設の大きな特徴は、供給のた
めの包装荷姿がこれまでの「トランス
パック」から「ラップ」となることで氣
味深く見つめられていた。

■ 駆動スイッヂオン

■ TMR供給で万歳三唱

閉会にあたり、温泉川寛明理事(広
酪・生産委員長)による力強く大きな
万歳三唱の発声で、参加者一同両手を
挙げて呼応した。



(圧縮された飼料搬出を待つ出席者)



ご挨拶

代表理事組合長 岩竹重城

広酪は、平成6年4月1日県内18の酪農専門農協による合併から満20年を迎える節目の年、広酪の庄原TMRセンター（庄原市一木町）とみわTMRセンター（三次市三和町）を統合した新生「みわTMRセンター」の竣工を迎えるに至りました。

この竣工にあたりましては、広島県、関係団体等のご指導とご助言を頂戴し国の強い農業づくり交付金事業（畜産飼料供給体制整備事業）、畜産経営力向上緊急支援リース事業による補助金交付を得ることが出来ました。

また、この建設設計・建築工事、機械装置設置では、従事戴きました理建設設計、（有）ユノカワ、（有）岸本鉄工、中国ヤマトハカリ（株）、エム・エス・ケー農業機械（株）ほか関係各位に感謝致します。有り難うございました。

新生「みわTMRセンター」の年間最大製造重量は12,000トンに置いていますが、充実し最新で優れる圧縮梱包機等の導入設置によりまして、これまでにも増して、低廉かつ栄養価が充実し、品質が優れる発酵タイプのTMR飼料の製造供給、かつ、職員による飼養管理指導の一層充実を図り、利用組合員において最大限のメリット享受が生じるよう全力を傾注して取り組み、組合員の負託・期待に応えたいと考えております。

顧みまして、広島県内でTMR飼料製造供給体制が整ったのは、広酪の設立時の被合併組合の備北酪農業協同組合が平成元年に「庄原飼料混合所（庄原市一木町）」を、また、双三酪農業協同組合が平成2年に「ミックスフィードセンター（三次市三和町）」の操業から始まります。

両施設では、豆腐粕・ビール粕などの未利用資源を有効利用し「未発酵タイプ」・「発酵タイプ」のTMR飼料を製造し、管内組合員に利用を呼び掛けられました。

このことは、飼養頭数規模の拡大が図られる等、酪農経営所得の向上とともに酪農発展に大きく貢献し、両組合により確立されたTMR飼料製造供給体制は、全国に先駆けた取り組みとして評価され、県内外から多くの観察者がありました。

本日、ここに新生「みわTMRセンター」がありますのも、こうした、先人、先輩諸氏の英知・英断が礎となっているものと改めて敬意と感謝の意を表するものであります。

現況、酪農経営を取り巻く環境は、世界穀物相場の高騰、かつ、新興国などの穀物需要の高まり、更には為替相場、投機マネーの介入などにより、酪農経営に必要不可欠な配合飼料、輸入粗飼料の価格は高止まりが続く中、可処分所得の維持すら難しい状況にあります。

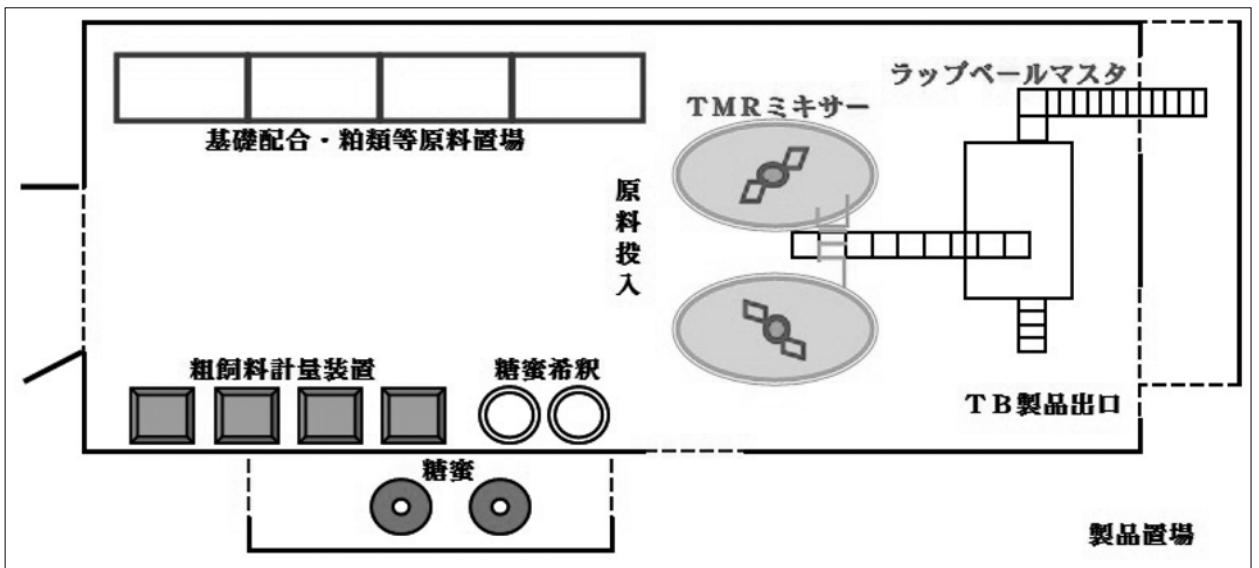
新生「みわTMRセンター」では、TMR飼料の原材料の一部を輸入粗飼料から国産の飼料イネ（品種：たちすずか又はたちあやか）等に置き換えることで、生乳生産コスト抑制に取り組みたいと考え、広島県、広島県農協中央会、広島県地域農業再生協議会、集落営農法人組織に対しまして、飼料イネ原料の生産供給への理解と協力を呼び掛け、必要数量の確保（平成26年度1,680トン・平成27年度2,520トン）に努力を続けて参りたいと考えております。

関係各位からも飼料イネの作付け紹介など情報提供をお寄せ戴きますようお願いします。今回の新生「みわTMRセンター」の竣工に伴いまして、庄原TMRセンターは飼料製造供給基地の役割を終えます。迎える6月1日からは、TMR飼料の原料となる飼料イネなどの保管倉庫として活用して参ります。

広酪では、新生「みわTMRセンター」の操業開始を契機に、現在、県内に149戸あります生乳出荷組合員数の減少速度の緩和又は歯止めがかかりますよう、「安くて良質なTMR飼料の組合員への供給」と「一円でも安いTMR飼料の供給」を掲げて、職員による供給指導の充実を図り、より多くの組合員にご利用戴きたいと考えております。

引き続き、広島県、系統上部団体など各方面からのご指導とご協力を切にお願い申し上げます。

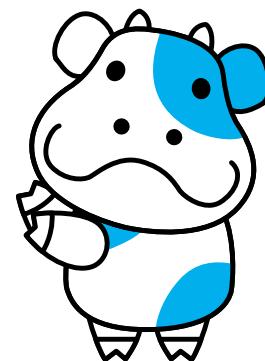
■製造施設の設置概要図



■製造施設の設置概要

事業総額 (内訳)	148,424 千円
強い農業づくり交付金事業 (畜産飼料供給体制整備事業)	60,568 千円
畜産経営力向上緊急支援事業	2,275 千円
自己負担額	85,581 千円

(税込)



■製造施設の設置概要

設備名	機械施設	数 量	能 力
混合設備	縦型ミキサー	2基	1基 17 m ³
圧縮梱包機	ラップペールマスタ	1式	10 t (500kg × 20個)/時間
電源設備		1式	
糖蜜希釀設備		2基	
飼料混合ピット		4基	
計量設備	台秤	4基	
計量設備	吊下げ	1基	
ショベルローダー		1台	1 m ³
その他付帯設備		一式	

広酪では、この竣工式を終え、三月三十一日から本格的に新TMR飼料の製造作業に入りました。現在利用されております「トランスバック方式」からのラップ梱包方式での供給移行に際して、ハンドリングの不安も伺っておりますが、新製品の供給をもつて移行サポートを行い、尚且つ新規供給先へも順次、それぞれ担当職員が推進を行っていきます。

この組合施設が広酪の購買事業の根幹となつて、低廉で良質な飼料供給をもつて、組合員の酪農経営コストの削減、省力化、そして、所得向上に貢献できますよう取り組んで参りますので宜しくお願いします。

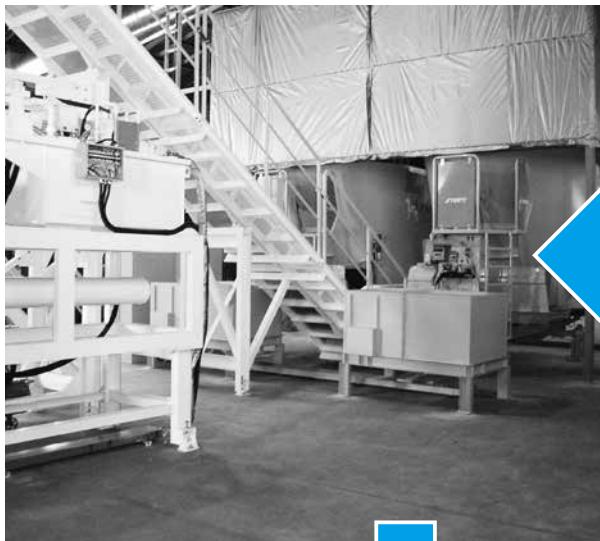
■ TMR 飼料製造の工程



① 乾牧草計量後のショベル搬送



② ミキサーへの投入



④ ミキサーからの排出



③ 基礎配合をバケットへ計量投入



⑤ ラップベールマスタへの搬送



⑥ ラップベールマスタの成型ラップ